

平成21年度

病害虫発生予察注意報（第3号）

平成21年7月24日

茨城県病害虫防除所

いもち病の防除を徹底してください！

作物名：水 稲

病害虫名：いもち病（穂いもち）

[発令の内容]

発生時期：やや早い

発生量：やや多い～多い

発生地域：県下全域

[発令の根拠]

1. 7月下旬現在，葉いもちの発生地点率及び発病度は，平年よりやや高い～高い。県内の一部では多発生ほ場（ずりこみ状）も認められる。特に，県南地域では，発生地点率及び発病度は，平年より高い（表1）。
2. 県南地域では，本病の多発年（平成18年）より高い発病度の推移を示している（図1）。
3. 7月22日，23日には，県内の広い範囲でいもち病感染好適条件が出現しており，7月末～8月初めにかけて葉いもちの発病・進展が予想される。
4. 気象予報によると，向こう一週間は曇りや雨の日が多く，気温も平年並か低いと予想されており，発生を助長する条件である。
5. 現在，水稻の出穂は平年より早く，早生品種は穂揃期を迎えており，葉いもちの発生が多い水田では，穂いもちの発生が懸念される。

表1 調査地点における葉いもちの発生状況（7月下旬調査）

地域 (調査地点数)	発生地点率 (%)		発病度		発生程度別地点数				
	本年	平年	本年	平年	甚	多	中	少	無
県北 (28)	86	83	9.5	12.3	0	1	2	21	4
鹿行 (6)	50	38	5.7	3.0	0	0	1	2	3
県南 (19)	89	32	11.2	2.0	0	0	6	11	2
県西 (12)	58	21	3.1	1.6	0	0	0	7	5
全県 (65)	78	53	8.4	6.4	0	1	9	41	14

発生程度：各調査ほ場の発病度を区分して集計したもの

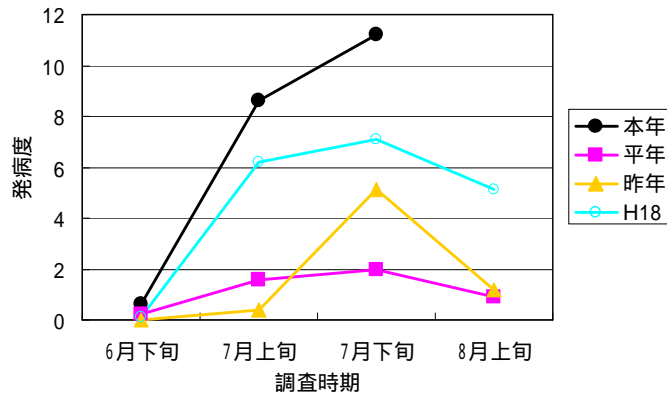


図1 葉いもち発病度の推移（県南地域）

[防除対策]

1. 現在，葉いもちの発生が多い水田では，穂いもちを対象に穂ばらみ期と穂揃期に必ず防除を行う。
2. 発生が少ない水田では，穂ばらみ期～出穂期に1回防除を行う。
3. 防除薬剤は表2を参考にする。なお，粒剤については，使用可能時期が限定されるので，生育状況に応じて施用の可否を判断する。
4. 薬剤耐性菌対策のため，育苗箱施薬および本田防除を含め，同一成分薬剤の連用は避ける。
5. 薬剤防除の際は，周辺作物への飛散に充分注意する。

表2 イネいもち病に登録のある主な薬剤（平成21年7月8日現在）

薬剤名	希釈倍数または 使用量	収穫前日数 または使用時期	本剤の 使用回数	有効成分 - 有効成分の 総使用回数
葉いもち及び穂いもち				
アミスターエイト	1,000～1,500倍	収穫14日前まで	3	アゾキシトピン-4(育苗箱1, 本田3)
ブラシンフロアブル	1,000倍	収穫21日前まで	2	フェリムゾン-2, フサライド-6(穂ばらみ以降4)
ビームゾル	1,000倍	収穫7日前まで	3	トリクラゾール-4(育苗箱1, 本田3)
穂いもち				
アチーブ粒剤7	3～4kg/10a	出穂30～5日前 (収穫21日前まで)	3	フェキサニル-3
嵐粒剤	2～3kg/10a	出穂25～5日前 (収穫21日前まで)	1	オキサトピン-2(移植前1, 本田1)
キタジンP粒剤	3～5kg/10a	出穂20～7日前	2	IBP-3(粒剤は2)
コラトップ粒剤5	3～4kg/10a	出穂30～5日前	2	ピロキロン-3(育苗箱1, 本田2)
コラトップジャンボ	小包装10～13個 (500～650g)/10a	出穂30～5日前	2	ピロキロン-3(育苗箱1, 本田2)

農薬を使用する際は，農薬ラベルに記載の使用方法，注意事項を守り，周辺作物への飛散（ドリフト）に注意して行ってください。特に収穫前日数，使用回数には十分注意してください。